５０	お　名　前	性　別	満年齢	終戦時の年齢	現 住 所
	犬塚美智代	女　性	６７歳	１歳	八名井

①　８月１５日は，どこでどんなことをしていましたか。

佐久間町の実家にいました。近くに豊川海軍工廠の旋盤工場があり，母が学徒動員の早稲田の学生さんの世話をしていました。食事を作るために，１日中煮炊きをしていたので，私が暑いからと髪の毛をくりくりに刈っていたそうです。それで学生さんは，「女の子なのに，かわいそうだね。」って言っていたそうです。

②　終戦のことを，どこで，どのように聞かれましたか。

母親から後に聞いたことです。その日，母の父（おじいさん）が，「日本が負けた！」と急いで言いに来たそうです。母は「そんなこと言うと，つかまっちゃうよ！」となだめたそうですが，それが終戦の知らせだったと聞きました。

③　敗戦を知らされた時の気持ちやその時の様子

私は何も覚えていないけど，兄は（昭和３年生まれ）１６歳でした。国防色の軍服を用意したときだったそうで,「覚悟をして国のためにと勇んでいたのに，自分の人生はダメになった。」と目標をなくし，がく然としたそうです。

④　体験の中で，子どもたちに語り伝えておきたいこと

戦争は人の人生を大きく変え，悲しいことが多すぎます。国土もふくめ，犠牲が多すぎます。地球を守り，平和な星が長続きする努力をしてほしいです。

昭和七年建立の車神社の百度石

「母のお百度参り」

父は支那事変（昭和１２年）のときに出征しました。母は，幼い子どもを残して出征した父（夫）が無事帰ってきてほしいと，毎晩村のお宮まではだしで行き，お百度参りをしたそうです。途中で誰かに会っても話をしてはいけないと聞き，ただ黙々と歩き続けたそうです。森の中の暗いお宮ですので，きっと足が冷たく，寂しく，怖かったろうなあと，母の話を聞いて思いました。

○　何も語らなかった父

帰ってきた父が持ち帰った実弾を大きくなってから見せてもらったけど，これが身体に入ったら人は死ぬんだ，と神妙な気持ちでながめました。父は戦いのことなどいっさい話しませんでしたが，一つだけ，言っていたことがあります。

敵が鉄砲を撃ってくる中を進まなくてはならない時があった。敵に向かってなかなか飛び出せない時，家の地の神様が頭に浮かび，足が自然に走り出していた。敵の弾に当たらないで突撃できたのは，地の神様のおかげだ，と話していました。

父は８３歳で亡くなるまで，毎朝，地の神様とお日様を拝んでいました。